

8 記念講演

演題『岩手にええコトたくさんあると思います！～移住して知った沢山の宝物～』

講師いわて応援芸人 天津木村氏

トークショー 天津木村氏、岩手県住みます芸人 アンダーエイジ

令和6年7月吉日

◇ 天津木村氏

生年月日：1976年5月22日
出身地：兵庫県姫路市、2021年4月から岩手県在住

◇ 概略



吉本総合芸能学院（NSC）大阪校21期生、姫路獨協大学法学部法律学科卒業
NSCの同期である向清太朗と1999年2月にコンビ「天津」を結成
決め台詞の「あると思います」は2009年の「新語・流行語大賞」にノミネート
2021年4月 番組MC就任を期に岩手移住

◇ アンダーエイジ

○くまがい 氏（左：ツッコミ担当） ○たもん 氏（右：ボケ担当）
生年月日：1982年6月5日 生年月日：1982年8月10日
出身地：岩手県花巻市 出身地：山形県山形市

◇ コンビ概略（2007年結成）

約6,000名超の芸人がある吉本興業で、NSC出身、東北出身者同士で結成された
唯一のコンビ
舞台以外にテレビ・ラジオの仕事も多く経験しており、スタジオの盛り上げ、
中継での的確なレポートなどで評価を得ている



- 9 大会参加費 4,500円
- 10 大会申込み 別紙「大会参加・宿泊・お弁当 お申込みのご案内」に沿ってお申し込みください。
- 11 会場付近案内
 - ・JR盛岡駅から徒歩4分（東西自由通路からマリオス前交通広場経由）
 - ・東北自動車道盛岡ICより車で8分



大会公式ホームページを開設
しております。
※大会情報、会場アクセス等
ご覧いただけます。



【お問合わせ】 大会実行委員会 事務局長 上路 克彦

所属 盛岡市立仁王小学校

〒020-0015 岩手県盛岡市本町通二丁目18番1号

TEL：019-623-4214 fax：019-623-4216

mail：e9001@city.morioka.iwate.jp

各県教育委員会教育長様
各県教育事務所長様
各県市町村教育委員会教育長様
各県公立小中学校長様
各県義務教育学校長様
関係機関各位

東北地区公立小中学校事務職員研究協議会
岩手県公立小中学校事務職員研究協議会
会長 下村 隆

第25回 東北地区公立小中学校事務研究大会岩手大会

第4回 岩手県公立小中学校事務全体研修会《第二次案内》

盛夏の候、貴職におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本会の活動に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標記研究大会を岩手県盛岡市において開催いたします。

つきましては、本研究大会を盛大かつ実りあるものにしたいと存じますので、貴所属職員の参加につきまして、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

◆◆◆ 開催概要 ◆◆◆

【大会テーマ】 創造しよう！ 学校事務の将来像を ～笑顔が広がる いい学校をめざして～

〈目的〉東北各県の学校事務の研究実践の交流並びに学校における組織マネジメントの確立と研究を目的とする

- 1 期 日 令和6年10月10日(木)～10月11日(金)
- 2 主 催 東北地区公立小中学校事務職員研究協議会 岩手県公立小中学校事務職員研究協議会
- 3 主 管 岩手県公立小中学校事務職員研究協議会
- 4 後 援 文部科学省 青森県教育委員会 秋田県教育委員会 山形県教育委員会
宮城県教育委員会 福島県教育委員会 岩手県教育委員会
岩手県市町村教育委員会協議会 岩手県小学校長会 岩手県中学校長会
岩手県小中学校副校長会 全国公立小中学校事務職員研究会
一般社団法人岩手県PTA連合会 公益財団法人日本教育公務員弘済会岩手支部
日本教育会岩手県支部 一般財団法人岩手県教育振興基金 岩手県学校生活協同組合
- 5 会 場 メイン会場：盛岡市民文化ホール（マリオス）
分科会会場：いわて県民情報交流センター（アイーナ）
- 6 日 程

| | | | | | | |
|-----------------|------|-------|---------------|-------|----------------------|-------|
| | 9:45 | 10:15 | 11:00 | 12:30 | 13:45 | 16:45 |
| 10月10日 (1日目) | 受付 | 開会式 | 文部科学省 行政説明 | 昼食 | 第1分科会A 福島・岩手・秋田 各県発表 | |
| | | | | | 第1分科会B 山形・青森・宮城 各県発表 | |
| | | | | | 第2分科会 各県発表 6県 | |
| | | | | | 第3分科会 岩手特別分科会 | |

| | | | | | |
|-----------------|------|-----------|-------|-------|-------|
| | 9:15 | 9:30 | 10:00 | 11:30 | 12:00 |
| 10月11日 (2日目) | 受付 | 分科会 報告 | 記念講演 | 閉会式 | |

7 分科会発表

【第1分科会A】 会場：いわて県民情報交流センター（アイーナ）804 会議室

| | | |
|-----|-------|--|
| 福島県 | 研究テーマ | 専門委員会連携から創造する福島県事務研の「かたち」 ～想い×成果×連携で紡ぐ事務研活動の立体化～ |
| | 発表概要 | 福島県事務研では4つの専門委員会（プランニング・研究推進・研修企画・情報）が主体的な活動を推進しています。近年、大量退職・採用により若年層の割合が増加するなど会員の年齢構成が大きく変化し、これまで培われてきた研究活動の継承が本県の課題となっています。課題解決のためには、専門委員会がそれぞれの枠にとらわれず連携し、ノウハウやスキルを補完し合う相乗的な研究・研修活動が重要であると考えます。本発表では、専門委員会の連携によりそれぞれの想いを紡ぎ合わせ生み出した活動成果を「立体化した成果」と定義し、次代を担う若手専門委員・事務局員が発表します。従来の枠組みにとらわれないこれからの新しい事務研運営組織の「かたち」を、参加者の皆様と一緒に考え、創造していきたいと思います。 |
| | 発表者 | 福島市立清明小学校 副主査 青木 隆 郡山市立郡山第七中学校 主事 高萩 千明 郡山市立喜久田小学校 主事 松崎 愛菜 福島市立飯野中学校 主事 大河内 恭平 北塩原村立真磐梯中学校 主事 高橋 真二 |
| | 司会者 | 福島市立吉井田小学校 主任主査 久家 誠 |
| 岩手県 | 研究テーマ | 『できる！財務マネジメント』 ～様々な視点から変える学校財務～ |
| | 発表概要 | 岩手県では学校事務職員の職務確立や共同実施の在り方に係る3つの答申を「いわてのグランドデザイン」としてまとめ、研究の根幹としてきました。しかしながら、学校規模の差や単数配置の現状から、個々で実践に差が生じているのが現状です。岩手県事務研金石支部では、経験年数にかかわらず、学校事務職員の職務における根幹である「財務」に重点を置き、子どもの学びへの還元を目指し、「つかさどる」学校事務職員として学校経営に参画する取組について発表します。 |
| | 発表者 | 金石市立金石東中学校 主事 阿部 貴大 |
| | 司会者 | 金石市立小佐野小学校 主査 三浦 道徳 |
| 秋田県 | 研究テーマ | 時代の変化に対応したグランドデザインを目指して ～秋田こまちプランの改訂から～ |
| | 発表概要 | 秋田こまちプラン第2期は平成30年4月に3年間を見通した中期的なアクションプランとして策定されました。その後、秋田県では学校事務職員枠での採用が復活し、「秋田県教職キャリア指標（学校事務職員）」が明示され、令和5年度には県内すべての小中学校が共同実施となるなど、学校事務職員を取り巻く環境は大きく変化してきました。これに対応していくために、私たち学校事務職員はどうあれば良いのかを秋田こまちプランの改訂から考えてみたいと思います。 |
| | 発表者 | 大館市立南中学校 主事 畠山 以成 八郎潟町立八郎潟小学校 主任 澤田 雅俊 |
| | 司会者 | 鹿角市立花輪小学校 統括事務長 鈴木 真樹 |

【第1分科会B】 会場：いわて県民情報交流センター（アイーナ）小田島組☆ほ～る

| | | |
|-----|-------|--|
| 山形県 | 研究テーマ | どうする共同実施！？ ～モデル校における学校事務の連携・共同実施から考える～ |
| | 発表概要 | 山形県公立小中学校事務職員研究協議会では「学校事務の連携・共同実施」への取組を活動の柱の一つとしています。しかし、山形県では「モデル校における学校事務の連携・共同実施」の通知が5年前に出されたものの、本実施には至っていません。そのような状況の中、モデル校ではあるものの共同実施に取り組む地区が増えてきました。一方、取り組んでいない地区もあります。そこで、共同実施に対するアンケートを全会員に実施し、取組について検証しました。また、実施している地区の取組についても情報収集を行いました。そこから成果や課題を探るとともに、「学校事務の連携・共同実施」について、御参会の皆様と共に考えていきたいと思います。 |
| | 発表者 | 天童市立高掬小学校 主事 樋口 舞 大江町立左沢小学校 主事 斎藤 亜樹 |
| | 司会者 | 米沢市立南部小学校 主事 狩野 久美子 |
| 青森県 | 研究テーマ | みんなでつながるべし！ ～青森県事務研研究部 ゼロからの挑戦～ |
| | 発表概要 | 新型コロナウイルス感染症の流行により研修機会が失われたり、学校事情で職員室を空けることができないなど、会員が集まるのが難しい中で、研修成果を共有したり悩みを相談する場は重要であるという認識が強くなりました。また、研究部が取り組んだアンケートや県大会の発表をとおして、会員の悩みや関心にも変化が見えてきました。しかし、青森県では組織としてのつながりが希薄なため、成果などを共有する場面が少ない現状です。地区を越えたつながりを強め悩みや実践を共有することで事務職員の能力向上を果たし、ゆくゆくは子どもたちの学びの環境を支援していくために、私たち研究部には何ができるかを考えます。 |
| | 発表者 | 弘前市立第一中学校 主事 葛西 葉月 弘前市立第三大成小学校 事務主幹 對馬 あゆみ 五戸町立五戸中学校 主事 田中 友紀 |
| | 司会者 | むつ市立川内小学校 主事 佐藤 祐貴 |
| 宮城県 | 研究テーマ | 伊達なみやぎの学校事務職員の客観的ウェルビーイング ～事務職員実態調査結果からアプローチする新しいみやぎのビジョン～ |
| | 発表概要 | 宮城県の研修計画とビジョンは2025年に新たなものとなります。令和5年度に実施した事務職員実態調査から見えてきた宮城の良さや特性を生かし、変化していく職責と期待されるはたらきを踏まえて、みやぎの子どもたちの豊かな育ちと魅力ある学校づくりに貢献できる学校事務職員像を考察していきます。 |
| | 発表者 | 石巻市立杜鹿中学校 主事 川村 嶺平 石巻市立中里小学校 主事 阿部 由季 |
| | 司会者 | 気仙沼立大島小学校 主事 大原 美香 |

【第2分科会】 会場：盛岡市民文化ホール（マリオス）大ホール

| | | |
|-----|-------|--|
| 青森県 | 研究テーマ | 「2つの立場から育児休業を考える」 ～事務職員として男性教職員の育児参加を促進するために～ |
| | 発表概要 | 令和4年5月、地方公務員の育児休業等に関する法律の一部が改正されました。法改正を受けて青森県においても令和4年10月に学校職員の育児休業等に関する規則の一部を改正し、男性教職員の育児休業取得を促進しています。本発表では、「教職員のサービスを担う事務職員」と「育児休業を取得した一人の親」、両方の視点から見えてきたものを、実体験を踏まえて報告します。今後、育児休業を取得する男性教職員は増え、服務上の事務処理に携わる機会も多くなると思います。この発表を通じて、育児休業がどのように改正されたのかを確認していただき、男性教職員が育児参加をしていくために事務職員として何ができるのかを考えるきっかけとしていただければ幸いです。 |
| | 発表者 | 弘前市立津軽中学校 主事 齋藤 祥太 |

| | | |
|-----|-------|--|
| 岩手県 | 研究テーマ | 地区事務研における人材育成の取り組み ～未来へつながる、高め合う～ |
| | 発表概要 | 岩手県事務研九戸支部の事務職員構成は、若手事務職員と臨時事務職員が多く、経験年数が長い事務職員が少ない状況です。このことから、近年は研究活動において、若手事務職員が意欲的に推進しており、事務職員個々の資質向上のため、講演会や個人研究、市町村を交えたグループごとの実践研究を行っています。令和4年度からは、着任時や経験年数が少ない職員の不安解消と事務の平準化に資するため、用語集や産休・育休に係る事務等、4グループに分かれて「業務支援マニュアル」の作成に取り組んできた実践と取組について発表します。 |
| | 発表者 | 久慈市立長内小学校 主事 村田 昌之 |
| 宮城県 | 研究テーマ | 「事務職員不在時の対応」について考える ～事務職員と学校側の不安感軽減に向けて～ |
| | 発表概要 | 小中学校勤務の事務職員は、校内で数少ない行政職。校種や規模、経験年数等は関係なく、膨大で多種多様な事務処理に対応できるよう、学校運営を円滑に機能させるためには非常に休暇を取りにくい職種です。そこで『事務職員不在時の対応』を研究テーマとし、仙台教育事務所管内の各地区や事務職員等からの情報提供を基に、繁忙期や長期で不在になった際に生じる課題点を洗い出し、兼務発令されている共同実理事務支援室等からの支援を受けることも想定し、事務職員本人が整備しておくことと良い事、学校側でも心掛けて欲しい事、支援を受ける側とする側の双方が円滑に事務処理を進めるにはどうしたら良いかをまとめてみることにしました。 |
| | 発表者 | 大郷町立大郷小学校 事務長 佐竹 成樹 多賀城市立多賀城小学校 主査 市川 桂奈 |
| 秋田県 | 研究テーマ | 子どものよりよい未来を支えたい ～学校事務職員として私ができること～ |
| | 発表概要 | 県立学校で3年勤務し、昨年度初めて小学校に配属されました。同じ学校事務職員でも様々な違いを感じ、戸惑い、もがき、孤独に思うときもありました。そんな中で、事務研究会や共同実施の先輩、仲間からの支援にとても助けられながら仕事を行ってきました。それによって、この1年で経験したこと、連携することの大切さなど多くのことを学ぶことができました。本発表では、そうした学びや、子どもたち・地域と関わっていく中で感じたことを通して、子どもたちのよりよい未来のために自分にできることは何かを考え、日々実践していることをお話ししたいと思います。 |
| | 発表者 | 横手市立醍醐小学校 主事 佐々木 若菜 |
| 山形県 | 研究テーマ | 学校事務の継承・学校事務職員同士のつながりを深める取り組み ～「主事対象研修会」を通して若手・中堅・ベテランそれぞれが学んだこと～ |
| | 発表概要 | 酒田市教育研究所・遊佐町教育研究会学校間連携班は、世代交代が進んできている地区全体の学校事務職員のつながりを深めるために、若手育成に必要なことは何かを考え、その課題解決に取り組んでいる。その取組のひとつとして「主事対象研修会」を企画し、若手事務職員同士のつながりをつくり、若手の不安感解消を目指してきた。手探りで始めた「主事対象研修会」。開催初年度からの研修内容や、研修に参加した主事と運営側の学校間連携班員それぞれの意見のまとめを見ると、回を重ねるごとに主事同士のつながりと主事・学校間連携班員のつながりが深まってきていると感じ取ることができる。これまでの「主事対象研修会」について紹介し、見えてきた成果と課題から、今後この取組をどのように発展させられるかを考えていきたい。 |
| | 発表者 | 酒田市立第一中学校 事務主査 後藤 しのぶ 酒田市立西荒瀬小学校 主事 小野寺 美音 |
| 福島県 | 研究テーマ | 福島県事務研の研究・研修成果を生かした私たちの共同・連携グループ会 ～個々の力が集まって課題解決する活動の歩み～ |
| | 発表概要 | 福島県の学校事務の共同実施は、「学校事務の共同・連携」と称し、平成25年度より開始され11年になろうとしています。現在、県内では88のグループが、それぞれの課題や活動方針に沿って様々な取り組みを行っています。私たちのグループでは、「学校事務の共同・連携」という新たな活動を何から始めれば良いかという問いに、「私たちには、これまで積み重ねてきた事務研活動がある」、「その延長上にグループ会活動を据えれば、事務研の研究活動や成果を生かし、各校の学校事務の向上を促進していけるのではないかと仮定して活動してきました。本発表では、私たちのグループ会が、これまでの取り組んできた実践内容と試行錯誤の軌跡をグループ員の想いを交えて発表いたします。 |
| | 発表者 | 二本松市立小浜中学校 主任主査 加藤 智恵子 二本松市立東和小学校 主事 武藤 志歩 |

【第3分科会】 会場：いわて県民情報交流センター（アイーナ）812 研修室

| | | |
|-----|------------|---|
| 岩手県 | 研究テーマ | いわいのグランドデザイン ～みんながやっている実効策～ |
| | 発表概要 | 「いわてのグランドデザイン～みんなのできる実行策～」を受け、支部ではどんな実践、深化ができるかを探りました。コロナ禍で集まる機会を奪われている中、より実務・実践に重点を置いた研究を意識しつつ、少人数グループでの実践交流と、それを全体場で発表することを定型にして、研究会ごとにテーマを決めて実施しました。本分科会では、参加した皆さんにも研究の形を体感していただき、その効果を検証します。日々の実践が、誰かの悩みを解決に向かわせます。日々の悩みが、誰かの実践で解決に向かいます。課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現→実践→課題設定のポジティブスパイラルで、実行策を実効策にしていきたいと思います。（盛岡大学文学部児童教育学科 教授 福島正行氏のミニ講演を予定しています） |
| | 発表者 司会者 | 岩手県事務研一関支部特別チーム |
| | 助言者 | 盛岡大学文学部児童教育学科 教授 福島 正行 |